

「上州河原湯」
秋にむかふ、
山のたつきの かそけきに
ことは早く、
電ふりにけり
〔春のことばれ〕
釈 遥空

国学院大学 令和4年10月20日(休) 定期号(毎月20日発行) 1部20円
【発行】国学院大学 【編集】総合企画部広報課 〒150-8440 東京都渋谷区東四丁目 【電話】03(5466)0130 【FAX】03(5466)0528

祭儀 ■ 創立記念祭 11月1日(火) 午前10時 神殿 ■ 関係者故者慰霊祭 11月1日(火) 午前11時30分 百周年記念講堂

観光地域づくり法人(DMO)の最前線で地域を動かす



国学院大学に「観光まちづくり学部」が誕生し、観光を基軸に多様な側面から地域に貢献していく人材の輩出が期待されている。一方、これまでの院友(卒業生)の中でも、観光を活用した地域づくりの最前線で活躍する卒業生が数多くいる。一般社団法人秩父地域おもてなし観光公社の事務局長、井上正幸さん(平3卒・99期文)もその一人だ。日本三大曳山祭のひとつ、「秩父夜祭」が有名な秩父地域で、ユニークな観光プロジェクトを生み出すキーパーソンとして実績を積み、全国各地で講演活動も展開している。

秩父地域おもてなし観光公社は、観光地域づくり法人(DMO)第1弾に認定され、「ちちぶ定住自立圏」を形成する、埼玉県秩父市、横瀬町、皆野町、長瀬町、小鹿野町の1市4町の観光情報の発信や地域のPRを手掛けている。観光協会や商工課など既存の団体が実施していない事業で、かつ、秩父地域で連携する必要がある事業を担当している。

井上事務局長は、1市4町の首長や地方議員、経済団体や民間企業、地元住民たちを訪ね、話を聞き、「こんなことがあったら、いいな」というアイデアを見つけ、事業化に結び付けている。

例えば、西武鉄道と埼玉県と連携し、「チーム秩父」を結成した。魅力ある地域を取材して、旅行商品化できそうな素材を発掘し、連携し宣伝活動などを展開している。また、秩父地域の観光ガイドたちが学び合う「案内人倶楽部」や、観光協会と連携し、観光の足として自転車を活用する「広域レンタサイクル事業」など、1市4町と各種団体が団結できるように縁の下で支えている。

セメント工場跡地を道の駅として再活用させた経験を生かし、廃業したケーブルテレビの代わりに、YouTubeを利用した「秩父おもてなしTV」を開設したほか、秩父地域地場産業振興センターの再生にも力を注いでいる。

4・5面に関連記事

運動部会が健闘 全国大会で好成績 学生の活躍光る

各運動部会が秋の試合シーズンを迎え、大会で好成績を収め活躍している。

10月10日には、出雲全日本大学選抜駅伝競走が開催され、陸上競技部が準優勝の好成績を収めた。令和元年度の優勝に続くチーム史上2番目の成績で、主将の中西大翔選手(健体4)≪写真右≫は4区で区間賞を獲得した。今回大会では感染症予防策を講じたうえで、応援が認められ、院友会の島根県支部が応援に駆け付け、選手に声援を送った。

柔道部も全国の舞台で活躍を見せた。体重別個人の学生日本一をかけた全日本学生柔道体重別選手権大会で、男子73kg級の後藤颯太選手(健体1)≪同左≫が1年生ながら見事に優勝を果たした。準決勝、決勝とも4年生選手と対戦し、延長戦までもつれる激戦を制した。同90kg級では押領司龍星選手(経営4)が準優勝となり、2年連続で表彰台が上がった。ほかにも3選手が5位となり、本学から出場した10選手中5選手が入賞を果たした。



そのほかの部会も全国や関東大会の舞台で健闘を見せ、学生の活躍が光った。

【K:DNA I・II面に関連記事】

みはるかすもの

今年のノーベル賞が発表された。発明家アルフレッド・ノーベル(1833〜1896)の遺産と遺言を基に、1901年に創設された賞の目的は、「人類に最大の貢献をもたらした人々」を表彰することだ。

「死の商人、死す」——この言葉が、賞創設のきっかけと言われている。彼の兄が亡くなった際に、本人と誤認した新聞が掲載された記事の見出しだ。彼の発明したダイナマイトが戦場で使われ、莫大な利益を得ていたからだ。世間からの評価に対し、彼は何を思ったのか。本人の言葉は残っていない。だが、後世に「死の商人」としてではない名を残そうと、ノーベル賞を考え

たのではと推測されている。ダイナマイトの名はギリシャ語で「力」を意味する「Dynamis」に由来する。この発明品が持つ力は武器としての威力だけではなく、土木や採掘工事などの発展を支える力も持っていた。彼が生きた時代は、世界各地で戦争が起きていた。遺言状に書かれた5部門のうち、最後に言及されたものが平和賞だ。「ひとつは、国家間の融和・軍隊の廃止や削減、平和会議の開催や推進のために最大あるいは最善を尽くした人物に」と表彰式は、彼の命日である12月10日に行われる。「死の商人」と呼ばれたノーベルが自らの名を冠することになる賞に託したのは、さまざまものを生み出す「人間の力」が、善い方向に繋がってほしいとの願いだったのではないだろうか。



彬子女王殿下とともに学生らが稲刈り コメ作りワークショップで日本文化に触れる

コメ作りの体験を通じ、日本の文化や歴史に触れる機会とする「新潟コメ作りワークショップ」の稲刈りが9月22日、新潟市北区で行われた。この企画は、彬子女王殿下が総裁を務められる一般社団法人「心游舎」が主催しており、学生も参加して5月に田植え、7月に草取りを行った。今回は彬子女王殿下をはじめ、学生11人と協力農家の方や地元の子どもなど約50人が参加した。

7月の大雨や刈り取り直前の台風14号による影響が懸念されたものの、地元では「なびく」と言われ、穂先が大きく、こうべを垂らす状態に立派に成長。彬子女王殿下が最初の刈り取りをされた後、地元の伝統的な農作業に着替えた学生らは横一列になり丁寧に稲を刈り取っていった。学生たちは、稲刈りの大変さに汗を流しながらも、地元の方や農家の方や子どもたちと言葉を交わし笑顔を見せた。



稲刈りを終えた彬子女王殿下(前列左から5人目)と参加者ら



刈り取った稲は、地元で「まるける」という藁を使い束ねる作業でまとめられていった。学生たちは初めての体験に四苦八苦していたが、農家の方にコツを教えてもらい徐々に慣れ、田んぼには次々と稲束が積み重ねられていった。稲束はその後、天日干しのための棚である「はさ」に掛けられ、はさ一杯に黄金色の穂が翻った。

稲刈り後の振り返り学習では、学生たちから「手作業でやることで、コメの大切さを知れた。コメ作りの伝統は伝える人と継承する人がいて成り立っていると実感できた」「自分で植えた苗が立派になり、自分の手で刈り取るという貴重な体験ができた」といった感想が挙がった。最後に彬子女王殿下は「苗を植え、雑草を取り、稲を刈る。大変な作業だが、昔の方々はそれだけ力を尽くしてコメ作りを残してきた。そのことを感じる機会として、今後参加してほしい」と参加者に語り掛けられた。

今回収穫したコメは、11月には本ワークショップが育てたものとしては初めて伊勢神宮へ奉納される予定。

交換留学生ら歓迎会 本学での学びをスタート

令和4年度のK-STEP交換留学生らの歓迎会が、10月7日に渋谷キャンパスで開催された。当日は、K-STEP交換留学生ら11人に加え、大学院留学生1人と国際招聘研究員1人も参加。在学生と教職員ら約40人と交流を深めた。



日本語や母国語であいさつを行った留学生たち

はじめに岩瀬由佳国際交流推進部長(文学部教授)が「さまざまな国から留学生が来てくれた。本学学生との交流も含め、充実した留学にしてほしい」とあいさつ。続いて、交換留学生らが日本語や母国語で、「母国でも日本語と日本文化を学んでいる」「今回が2回目の来日。大好きな日本にまた来ることができ嬉しい」とあいさつし、会場から大きな拍手が贈られた。その後、懇親のためにクイズ大会と交流企画が催された。クイズ大会では、日本や留学生らの出身国にちなんだ問題が出題された。参加者らが日本語や英語などでお互いに正解を話し合いながら解答する様子が見受けられた。交流企画では「私はこんな人を知っている!」と題し、各国の観光地を訪れたこ

とがあるかなど全21問の質問用紙が配られた。15問を埋めると賞品がもらえるとなっており、参加者らは質問用紙を片手に次々と会話を重ね、会場は大いに盛り上がった。歓談の時間では、留学生と本学学生とが互いの専門や学んでいる内容を紹介したり、留学生が訪れてみたいと希望する日本の観光地や体験したい日本文化などについて紹介するなどの会話が交わされ、笑顔で交流を深めていた。

今後定期的な交流イベントや日本文化を体験するイベントが催される予定。

北海道短期大学部 創立40周年 各種記念事業を開催



西村学部長の講演に、参加した関係者らは耳を傾けた(北海道短期大学部提供)

国学院大学北海道短期大学部(滝川市)が昭和57年4月の開学から40周年を迎えた。9月16日に、「開学40周年特別講演会」が同市内のホテル三浦華園で行われ、多くの関係者や市民らが参加した。

講演会冒頭、佐柳正三理事長が「本年は創立140周年の節目でもあり、建学の精神に立ち返るとともに、地域への貢献にも取り組む」、平野泰樹・短期大学部学長が「今後、教学と地域貢献の強化を進め、市とともに発展していきたい」と述べた。来賓からは、前田康吉・滝川市長が「短大部の学生は地域で活躍し、卒業生も市を応援してくれる。市の誇りであり、地域協力に感謝したい」とあいさつした。

講演では、大学の観光まちづくり学部長である西村幸夫教授が「地域を見つめ、地域を動かす」と題し登壇。西村学部長は、「持続可能な地域活性化には、地域の社会・環境・経済のバランスが重要だ」とし「文化や歴史、自然などから地域を見る文系目線と、データや数値の活用などで地域を説得する理系目線の両輪が必要」と同学部が掲げる文理融合への想いを語った。さらに「その『まち』独自の物語は地域の誇りとなり、地域の外からは魅力となる。滝川市にも独自の物語があるはずで、短大部開学にも先人や地域の人たちの思いと描いた未来があったはず。ぜひ物語を共有して、前向きなまちづくりが進んでいってほしい」と短大部と滝川市にエールを贈った。

記念事業はほかにも、同校と滝川市の連携を振り返る展示会や、親子向けワークショップなどが9月から10月にかけて開催され、多くの市民らが会場となった同校キャンパスや市庁舎、図書館を訪れた。

令和4年度 指定寄付者一覧 (敬称略)

令和4年4月1日～9月30日 (単位:円)

申込者	寄付目的	金額	収納日
松浦 傳	学生・生徒等の奨学基金	50,000	令和4年4月15日
關橋 淳	課外活動支援 (硬式野球部)	1,000	令和4年4月28日
		1,000	令和4年6月30日
		1,000	令和4年8月22日
		1,000	令和4年9月26日
横山 楓	学生・生徒等の活動支援 (硬式野球部活動支援)	700,000	令和4年5月25日
福永 奨	学生・生徒等の活動支援 (硬式野球部活動支援)	1,200,000	令和4年5月27日
関根 俊	学生・生徒等の奨学基金	1,000,000	令和4年6月5日
一般財団法人国学院大学院友会 会長 吉田 茂穂	教育・研究振興支援 (母校所蔵貴重資料デジタル化)	100,000	令和4年6月9日
	国学院大学創立140周年記念	2,000,000	令和4年7月20日
伊藤 直記	課外活動支援 (陸上競技部)	10,000	令和4年6月15日
小林 平八郎	課外活動支援 (陸上競技部)	20,000	令和4年6月15日
小山 東夫	教育・研究振興支援 (学力向上)	30,000	令和4年6月29日
臼杵 千枝子	学生・生徒等の活動支援 (箱根駅伝と東都大学1部リーグ野球の上位入賞への支援)	150,000	令和4年6月29日
SMBC日興証券株式会社 第一公益法人営業部 第一公益法人営業部長 和田 祥美	教育・研究振興支援	500,000	令和4年6月30日
喜多山 健二	学生・生徒等の奨学基金	100,000	令和4年6月30日
福田 光一	課外活動支援 (バスケットボール部)	5,000	令和4年6月30日
山本 周典	学生・生徒等の奨学基金	5,000	令和4年6月30日
匿名	学生・生徒等の活動支援 (柔道)	100,000	令和4年7月1日
矢澤 敏司	学生・生徒等の奨学基金	10,000	令和4年7月6日
新井 ささほ	学生・生徒等の奨学基金	50,000	令和4年7月11日
島矢 大嗣	課外活動支援 (体育連合会射撃部現役部員)	5,000	令和4年7月15日
公益財団法人末延財団 理事長 滝澤 正	学生・生徒等の活動支援	1,000,000	令和4年7月21日
廣尾稲荷神社 宮司 山口 耕司	施設・設備充実支援 (創立140周年に係る施設充実)	1,000,000	令和4年7月21日
飯田 光夫	学生・生徒等の活動支援 (駅伝支援)	50,000	令和4年7月25日
株式会社アローズ・ケイ・渋谷 代表取締役 城所 俊哉	学生・生徒等の奨学基金	33,000,000	令和4年7月28日
橋本 憲市郎	施設・設備充実支援 (国学院大学北海道短期大学部)	100,000	令和4年8月8日
牧内 りずむ	学生・生徒等の奨学基金	5,000	令和4年8月8日
神社本庁総合研究所 所長 田中 恆清	教育・研究振興支援 (研究開発推進センター研究事業)	300,000	令和4年8月15日
株式会社アルク 代表取締役 實川 利光	学生・生徒等の奨学基金	60,000	令和4年8月19日
齋藤 美香	課外活動支援 (ソフトテニス部)	10,000	令和4年8月22日
小林 恵津子	学生・生徒等の奨学基金	500,000	令和4年8月29日
株式会社四門 代表取締役 宝土 大亮	教育・研究振興支援 (考古学研究室)	100,000	令和4年9月16日
三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社 取締役社長 小林 真	学生・生徒等の活動支援 (140周年記念事業)	500,000	令和4年9月22日
株式会社ユニーク 代表取締役 加藤 謙太	学生・生徒等の活動支援 (国学院大学久我山高等学校ラグビーフットボール部)	1,000,000	令和4年9月26日

「指定寄付金」でご芳名

学校法人国学院大学では、私学としての公共性と独自性のある教育研究体制を確立するために、広くご寄付を募っています。

令和4年4月から9月まで、**別表**の通り、多方面の方々からご寄付をたまわりました。ここに、ご芳名を掲載し、重ねて深

甚の謝意を表します。

本法人に対するご寄付は、専用用紙による申し込みとインターネット上でのクレジットカード決済による申し込みが可能です。詳細は6面をご参照ください。

(総務部総務課)

9月卒業 令和4年度は67人



国学院大学の令和4年度9月卒業生が9月30日付で確定し、67人が対象となった。

9月28日に行われた文学部証書授与式では、矢部健太郎学部長が参加した卒業生一人一人に証書を手渡した。矢部学部長は「学部で得た『問題を設定し、情報を集めて分析し、論じる』というノウハウは卒業してからこそ役立つ。今後の人生を豊かにしてくれるものだ。学びをやり遂げたことを誇って欲しい」と言葉を贈った。

卒業期は131期で、卒業式典は令和5年3月19日に開催される予定。所属学部学科別の卒業生数は次の通り。

- ◎**文学部** = 21人▷日本文10人▷中国文3人▷外国語文化4人▷史2人▷哲2人
- ◎**経済学部** = 23人▷経済11人▷経済ネットワーク9人▷経営3人
- ◎**法学部** = 16人▶法律専攻12人▶法律専門職専攻1人▶政治専攻3人
- ◎**神道文化学部** =▷神道文化3人
- ◎**人間開発学部** = 4人▷初等教育1人▷健康体育3人▷子ども支援0人



本学は、明治15(1882)年の皇典講究所創設以来140年の歴史を有する大学である。図書館も同じ年数を経て現在に至っている。その蔵書は皇典講究所創設以来脈々と積み重ねられてきた。しかし資料の収集の面において、多くの苦労があった。「大学令」大

戦前における本学図書館の歩み

学問ノ道 第46回

皇典講究所開設にあたり神道事務局の蔵書が譲り渡された。これ

本学は、明治15(1882)年の皇典講究所創設以来140年の歴史を有する大学である。図書館も同じ年数を経て現在に至っている。その蔵書は皇典講究所創設以来脈々と積み重ねられてきた。しかし資料の収集の面において、多くの苦労があった。「大学令」大

皇典講究所開設にあたり神道事務局の蔵書が譲り渡された。これ

大正7(1918)年12月に「大学令」が公布され、9月2月に本学も昇格が認可された。昇格後の図書館整備を澤田章(第5期・教授・図書館長)に委嘱。図書館建築計画が進まないなか、根津嘉一郎の寄付により、昭和2(1927)年念願の図書館が建設された。同

9年、澤田が死去すると、進藤讓が専任の図書館長となる。教員系列ではない図書館長は大変珍しいことである。19年、進藤は福岡県立図書館長に転出。その後任には島田春雄(第36期・国文)が就任した。進藤は第23期師範部卒。卒業後は、私立東京中学校、埼玉県立熊谷農学校、愛知国学院で教鞭をとる。2年から「国学院雑誌」の編集に従事した。館長就任後は、全国高等諸学校図書館協議会、私立大学図書館協議会に加盟し、大いに活躍をした。

蔵書は年々充実し、加藤孝太郎、江口辰太郎、三矢重松、高橋龍雄等の院友や早川千吉郎、水野忠欵等から寄贈を受け、また佐佐木高行家、八代国治からの寄託も得た。重要文化財である「久我家文書」も戦前に寄託されたものである。



学術メディアセンター事務部長 古山悟由

観光を生かした地域創生

信頼が鍵

地元と共に歩む

一般社団法人秩父地域おもてなし観光公社(以下、公社)で、事務局長として公社運営を切り盛りし、1市4町や民間企業などの関係者をつなぐキーパーソン・井上正幸さん(平3卒・99期文)は、行政職員だ。観光を活用した地域創生分野の第一人者で、全国で講演する井上さんは「利害関係者に協力してもらうには、この指とまれ方式は通用しない。自分が足を動かして、汗をかくことで、初めて信頼してもらえる」と話す。

公社は、「ちちぶ定住自立圏」を形成する、埼玉県秩父市、横瀬町、皆野町、長瀬町、小鹿野町の1市4町の観光情報の発信や地域のPRを手掛けている。第1弾の観光地域づくり法人(DMO)にも認定された。行政職にありながら、民間企業も交えた連携事業を推進する井上さんに、観光からのアプローチで地元と共に歩む現況や今後について話を聞いた。

- 井上正幸**
埼玉県秩父市出身。国学院大学文学部文学科卒。一般社団法人秩父地域おもてなし観光公社事務局長。本学卒業後、秩父市役所観光課などを経て現職。観光を通じた秩父地域の活性化を牽引してきた実績は、観光地域づくり法人(DMO)の成功事例として全国から注目を集める。
- 観光地域づくり法人(DMO)**
(Destination Management/Marketing Organization)
住民や公共団体、産業、交通事業者など地域の多様な関係者との合意形成やデータに基づくブランディング、持続可能な戦略の推進など、観光地域づくりの中心的な役割、機能を果たす。
- 秩父夜祭**
300年前の寛文年間(1661~72年)には行われていた記録が残る。屋台囃子とともに、国の重要有形民俗文化財に指定されている笠鉾2基と屋台4基の山車が秩父市中を曳き回される。屋台で行われる秩父歌舞舞などあわせて「秩父祭の屋台行事と神楽」として重要無形民俗文化財にも指定されている。
- 第2のふるさとづくり**
観光庁が推進するプロジェクトで、コロナ禍での自然環境にふれる旅のニーズの高まりをうけ、地域経済活性化のため、「地域を第2のふるさとのように『何度も通う旅、帰る旅』というスタイル」の普及と定着を狙うもの。



観光の仕事がライフワークに

「観光の仕事に就いたのはいつ?」
秩父市役所に入庁して最初の仕事は滞納者徴収係だった。税金を支払ってもらおうように滞納者を訪問して回る仕事を5年間続けた後、観光課へ異動になった。大学生の時は、市役所に観光の仕事があることすら知らず、公務員になつてからも観光に携わりた

観光分野を軸に1市4町が連携

「秩父地域おもてなし観光公社を立ち上げた経緯は」
全国の地方自治体で「平成の大合併」が行われていた時、秩父地域の1市4町も合併に動いたが、うまくいかなかった。1市4町の皆さんの思いが一つであっても、「総論賛成、各論反対」になつたからだ。その頃、総務省が「定住自立圏構想」を打ち出した。中心市の都市機能と近隣市町村の農林水産業や自然環境、歴史、文化など、それぞれの魅力を活用して、NPOや企業といった民間の担い手を含め、相互に役割分担し、連携、協力することによって、地方圏への人口定住の促進を目指す政策だ。平成21年度から、秩父圏域の1市4町も、定住自立圏構想に取り組んでいて、市役所の職員として私が担当の一人だった。「合併はしないけど、やりやすい部分で一緒に取り組む」ことができるのが特徴で、協

観光公社の仕事の難しさは

「観光公社の仕事の難しさは」
どれだけ市や町の皆さんと苦勞を共有できるか、汗をかかなくていいことが大事だ。コンサルタントのような知識を持つ人は山ほどいるけど、足を動かして動いて、プロジェクトとして形にできる人は少ない。観光は地方政治との間を上手く立ち回るような嗅覚や土地勘を持つ行政職員のスキルが欠かせない。広域の観光プロジェクトでは、それぞれの団体が「頭」を取っていたがる。だから、観光に携わる関係団体の人たちは「行

続けることが一番の財産に

「続けることが一番の財産に」
発足から10期目を迎えた秩父地域おもてなし観光公社は、地元の観光プロジェクトを推進するために、なくてはならない存在になつてきている。井上さんは「地元の人たちと協力して、続けられてきた」とが何よりも重要なことだ」と地元愛を口にする。観光地域づくり法人(DMO)の認定取得や、新型コロナウイルスの感染拡大による影響などのさまざまな道のりを経て、次に見据えるのは、SDG

観光公社を長く続けることができていのはなぜか

「観光公社を長く続けることができていのはなぜか」
事業を続けていくには収益を稼ぐことが重要だ。行政は選挙で首長が代われば、方針が変わる。毎年結果を出すように努力して、今年で10期目に入った。コロナ禍で飲食店が自粛に追い込まれた時、その支援のために民間の企業から「クラウドファンディング」を立ち上げてくれたのか」と頼まれた。観光公社なら必ず動いてくれるという信頼を寄せてもらっていることを実感したが、続けることができてい、そのことが一番の財産だ。観光による地方振興をテーマに講演するとき、「市役所職員の私ができたことなので、どのまちでもできるはず」と話している。

次の10年へ向けて、取り組みたいことは何か

「次の10年へ向けて、取り組みたいことは何か」
コロナ禍を経て、SDGsとDXが新しいテーマとして浮上している。この2つをキーワードに取り入れた新しい企画にチャレンジしている。

国学院大学で学んだことがどう生かされているのか

「国学院大学で学んだことがどう生かされているのか」
三峯神社や宝登山神社、秩父神社の三社の人たちに、自分と同じ国学院大学の出身者が大勢いる。三峯神社の会議に出席した時、「国学院大の後輩です」と挨拶すると、「知っていたよ」と言ってもらった。大学では「神道概説(当時)」が必須科目で、教わった先生が秩父神社の宮司だった。そのころから、地元に戻ることが決



井上さんは特産品を通じた地域の魅力発信にも力を入れている。



公社のオフィスには秩父夜祭の山車の模型が飾られている。



「観光課で印象に残っている仕事は」
毎年12月2、3日に行われる「秩父夜祭」をはじめとするさまざまな祭りの仕事を担当したことが、秩父夜祭は秩父神社の例大祭として、江戸時代中期頃から続いており、京都の「祇園祭」、岐阜の「高山祭」と並んで日本三大曳山祭に数えられ、毎年大勢の観光客でにぎわう。地元には、秩父夜祭のために1年間過ごしている人がたくさんいる。私自身は秩父神社の周囲にある屋台町で育ち、祭りに携わっているのは知り合いばかり。子供の頃は祭りが大好きというわけではなかったが、大人になって、秩父夜祭のスケールの大きさがわかり、誇らしく思うようになった。

政の人は言うだけで、動いてくれない。「少しだけ携わって、役所で出世したいだけだ」などと疑いの目で見られるが、信頼してもらおうには時間がかかる。あるプロジェクトでは、最初の会議で出席者から「行政が仕切るつもりか」と怒鳴られたことがあったが、3年後には「井上さんの言った通りだった。やって良かった」と言ってもらえた。

「公務員の仕事との違いに戸惑いは」
平成13年に「道の駅」の立ち上げを任されたことが貴重な経験となった。当時は30歳



「観光地域づくり法人(DMO)を取得した効果は」
平成28年に、地方創生のために観光を活用するための手法として、DMOという言葉が流行し始めて、観光庁の観光地域づくり法人(DMO)にチャレンジした。平成26年におもてなし観光公社を立ち上げたころは、周りから「何しているところ?」との声が上がると、認知度は今一つだったが、第1弾の観光地域づくり法人(DMO)として、国に認定されたことで、地元のためにやってきた取り組みが正しかったと認められ、気がする。令和3年には、37地域しか選ばれない重点支援DMOにも認定され、地方の辛口の議員からも一定の評価をされるようになった。

「観光地域づくり法人(DMO)を取得した効果は」
観光庁のサステナブルな観光コンテンツ強化事業や観光庁が推進する「第2のふるさとづくり」事業などだ。次世代観光研究会を立ち上げ、若い世代、とりわけ、女性の声を吸い上げようとして、オンラインでリアルでのミーティングを実施している。一方で、旅館など既存の事業者に対する取り組みにも力を入れていく必要がある、観光公社の役割はどんどん大きくなっている。

たとえば、埼玉県秩父地方の特産物などを販売する秩父地域地場産業振興センターを観光公社が支援している。物産館を大幅に改装し、「じばさん商店」としてオープンした。特産品と観光コンテンツは二刀一石とタマゴの関係で、地場産業振興センターと観光が一緒になったことで、両者が一体的に企画・販売するワンストップの体制を整えた。また、秩父市ケーブルテレビ復活プロジェクトには、YouTubeを活用するよう、進言し、「秩父おもてなしTV」の開設に携わったりしている。

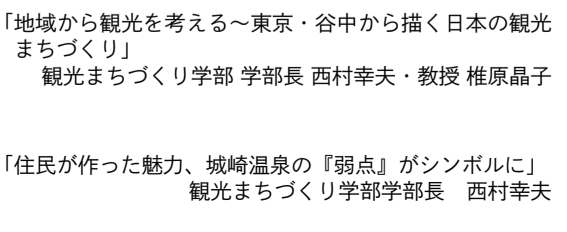
大学での出会いと学び

「地元で働くこと、観光の仕事のやりがい」
観光の仕事で頑張ろうと思つたきっかけは、大学時代の同級生の存在だ。卒業旅行も一緒に行くほど仲の良かった彼が、まちづくりの良かつたことを知った。同じ道を歩んでいる親友に刺激され、自分も負けずに頑張ってみようという気持ちになつた。大学では全国から人が集まり、さまざまな価値観、考え方を持った人材がいる。大学での

観光まちづくりに関する記事は国学院大学メディアでも掲載しています

「地域から観光を考える～東京・谷中から描く日本の観光まちづくり」
観光まちづくり学部 学部長 西村幸夫・教授 椎原晶子

「住民が作った魅力、城崎温泉の『弱点』がシンボルに」
観光まちづくり学部学部長 西村幸夫



インフォダイジェスト

- …在学生
 - …保護者
 - …卒業生
 - …一般
 - …受験生
- 内容 日にち 時間 場所 対象 定員 料金 申し込み 問い合わせ

大学からのお知らせ

令和4年度台風第14・15号による災害に遭われた皆さまへ

令和4年度台風第14・15号により災害救助法が適用された地域に主たる家計支持者が居住し、家計の急変で今後の学業生活に支障をきたすおそれのある学生は、保証人（ご父母等）と相談のうえ下記の大

キャリアサポート

※詳細確認・申し込みはK-SMAPY II から行ってください

企業セミナー

各業界のリーディングカンパニーの採用担当者が、業界や企業の説明をします。この機会に志望する企業や業界への理解を深めましょう。志望業界が定まっていない人は、さまざまな企業の話聞いて興味・関心の幅を広げていきましょう。

開催中～11月30日(水) ※終了日は変更の場合があります

対 1～3年生

第3回WEB合同企業説明会

秋採用を行う本学学生の採用意欲が高い優良企業をお招きして開催するWEB合同企業説明会です。4年生で、就職活動を継続されている方、新たに民間企業を検討しはじめた方は、ぜひ活用してください。

日 11月16日(水)

時 13時～16時10分

対 4年生

学各窓口までご相談ください。

適用対象地域は本学HPや内閣府HPで確認してください

- 問 ▶ 学生生活課 (☎03・5466・0145)
- ▶ たまプラーザ事務課 (☎045・904・7700)
- ▶ 大学院事務課 (☎03・5466・0142)

令和4年度学費等納付金について

令和4年度学費等納付金（後期）口座振替日は、11月28日(月)です。詳細は、10月中旬に発送した「学費等納付金納入のお願い」や大学HPをご確認ください。

問 経理課、学生生活課、たまプラーザ事務課、大学院事務課

「指定寄付金」ご協力をお願い

学校法人国学院大学では、私学としての公共性と独自性のある教育研究体制を確立するため、広く寄付を募っています。寄付の種類は、「学生・生徒等の奨学基金」「学生・生徒等の活動支援」「教育・研究振興支援」「施設・設備充実支援」の4つに加え、学生の課外活動を支援するための「課外活動支援（スポーツ強化部会など）」や「メッセージ募金」を設けています。「メッセージ募金」は、スポーツ活動や課外活動などに熱心に取り組む学生に向けて、HP上からメッセージを直接投稿してもらおう仕組み。ワンコイン（500円）から寄付が可能で、メッセージは専用HPに公開されます（匿名可）。

専用紙またはインターネットでのクレジットカード決済（VISA、MasterCardの2種類）が可能です。

問 総務課 (☎03・5466・0111)

※本法人への指定寄付金は税制上の優遇措置を受けることができます。募金に関す

新型コロナ感染予防

「3密」を避けよう



咳エチケット



る情報は専用HP（QRコード）で閲覧できます。

国学院大学経済学会 懸賞論文の募集

経済・経営・会計等に関するテーマで懸賞論文を募集します。優秀な論文には賞金（最優秀賞5万円、優秀賞3万円、佳作1万円）が贈られます。

対 経済学部1～4年生

日 12月1日(木)～8日(木)正午の期間に、論文（A4サイズ1ページあたり1200字程度で10枚以上。Word形式。表紙、要旨〈600字以内〉、目次、論文の順で記述すること）と本学HP（QRコード）からダウンロードした提出票・個人情報利用承諾書を応募期間中に公開される投稿先に提出してください。

問 経済学部資料室 (☎03・5466・0342)



私が勤める大豊建設は二ユーマチックケーソン工法、シールド工法などの特殊工法を用いた地下空間を構築して、人々の快適な社会生活に貢献する「縁の下の力持ち」だ。東京レインポブリッジの芝浦側基礎アンカレッジ工事は、当社が誇る技術で造られ、首都・東京の物流を支える要となっている。

また地下鉄や上下水道、ゲリラ豪雨の雨水を一時的に溜める地下貯留管施設の構築など社会生活に欠かせないインフラ整備を得意としている。

就職活動ではバブル崩壊後の就職氷河期に直面したが、父親が土木業界にいて幼少期からその背中を見て育ち、学生になり大豊建設の技術力の高さを聞いたこ

技術の進歩で耐用年数が延びる一方、度重なる災害で被災する土木構造物なども多く、直して長く使うための修繕・補強工事にも対応している。造って終わりではなく、その後も安心して使っていたことが重要だし、感謝の言葉を聞く「我々の仕事は人々の暮らしを支えている」との実感も湧く。

建設業に限らず、専門知識を大学で学ぶ機会は少ないが、コミュニケーション力や物事を取りまとめるノウハウなどは学生時代に身に付けることができる。専門知識は入社後に学ぶものなので、「文系の大学だから」と臆することは無い。

先輩に
聴く

大学で磨く
「コミュニケーション力」

大豊建設東京土木支店土木営業部第二営業課長 和田創さん(平7卒・103期法)

国学院大学と総合建設業（ゼネコン）——さほど接点がないと思われるが、和田創さん（平7卒・103期法）はゼネコンの中でも独自の土木技術を持ち、地下空間を構築する土木工事得意とする大豊建設（東京都中央区）の営業職として活躍している。「在学時はゴルフサークルの活動に力を注いだ」という和田さんが課外活動で磨いた社会人必須のスキルとは…。

大学で加入した「国学院大学セントアンドリュースゴルフクラブ」（現在は解散）では、全国各地から大学に集まった部員だけでなく対戦校の選手とも盛んに交流した。ここで磨いたコミュニケーション力は今も役立っている。

文系出身者にとって建設業界の仕事は分からないことだらけ。これを自己流に曲解したり、放置したりすれば顧客の信頼を失うことになる。分からないことがあった時、ためらわずに他人に聞くコミュニケーション力を身に付けていたからこそ、建設技術力の理解も深められ、不慣れな仕事も乗り切ることができた。

建設業に限らず、専門知識を大学で学ぶ機会は少ないが、コミュニケーション力や物事を取りまとめるノウハウなどは学生時代に身に付けることができる。専門知識は入社後に学ぶものなので、「文系の大学だから」と臆することは無い。

就職活動に際して、4年間の学びに繋がる分野を選択できなかったら大学での学問が無駄になったと感じるかもしれない。しかし、学びは就職してからも延々と続いてゆく。もっと視野を広げてコミュニケーション力を磨くことが大切ではないか。後に続く後輩たちには、ぜひ心に留めて前進してほしい。(談)

わだ・はじめ 国学院大学久我山高校から国学院大学に入学。法学部法律学科を卒業後、平成7年に大豊建設に入社。横浜支店、土木本部などを経て令和2年4月に東京土木支店土木営業部第二営業課の課長に就任。
大豊建設 <https://www.daiho.co.jp/>

硬式野球部

最終週前に首位浮上 2シーズンぶりの優勝奪還へ

国学院大学硬式野球部が所属する東都大学野球1部秋季リーグは、中盤戦となる第4週までを終了し、同部は最終週前に首位へ浮上した。

第3週の駒沢大学戦は、第2週につづきZOZOマリンスタジアム（千葉市）での開催となった。9月17日の第1戦では三回表、吉川育真選手（経3）が右二塁打、柳館憲吾選手（法2）が四球となり2死一・二塁に。続く青木寿修選手（経ネ4）が左適時打を打ち1点を先制。五回裏に同点に追いつかれた後、両大学とも追加点を奪えず試合は延長戦に突入した。迎えた十一回表、神里陸選手（神文2）の犠飛や土山翔生選手（経営2）のスライズなどで3点を追加し4-1と突き放し勝利した。19日の第2戦では、三回裏に1死一・二塁から山本大輔選手（健体4）の適時二塁打などで2点を先制。四回裏には田中大貴選手（健体2）のソロ本塁打で1点を加え3-0で勝利し、2連勝となった。先発の武内夏暉投手（健体3）は今秋2回目の完投。8奪三振、4安打に抑える力投で、好調さを見せつけた。

第4週は、明治神宮球場に舞台を戻し、日本大学と対戦。10月11日の第1戦では、一回表に青木選手の左適時打などで1-0と先制。七回裏に



要所で活躍した青木選手

同点となるも八回表、1死二塁から富田進悟選手（健体2）が2ラン本塁打を打ち3-1で勝利した。翌12日の第2戦は1-2と敗れたが、14日の第3戦では九回表、3-1とリードするなか、



2回目の完投、武内投手

1死一・三塁から神里選手、山本選手の適時打で2点を加え5-1で勝利した。この結果、同部は7勝3敗で勝率0.700、勝点3となり首位に浮上。最終第5週で優勝奪還に挑む。

ソフトテニス部

男女とも躍進光る

全日本ジュニアではワン・ツリーの快挙

国学院大学ソフトテニス部が各地で行われた全国大会に臨み、勢いを見せた。

9月3日から7日には、山口県山口市などを会場に全日本インカレが3部門で開催された。大学対抗選手権（団体戦）では同部男子がベスト8、同部女子がベスト16となった。学生選手権（ダブルス戦）では、男子の寺本隼選手（健体2）・岩崎俊介選手（健体1）ペアと女子の久保田茜選手（日文2）・原千晴選手（中文2）ペアがそれぞれベスト8に進出、ベスト16にも男女1ペアずつが進出した。シングルス選手権には、男子2選手、女子3選手が出場し、女子で久保田選手がベスト16と奮戦した。

9月17、18日には広島県広島市で第29回全日本ジュニア選手権大会が開催され、女子シングルスで濱島怜奈選手

（初教1）＝写真上＝が優勝、庄司琴里選手（初教2）＝同下＝が準優勝と表彰台上位を独占する活躍を見せた。両選手は予選から準決勝まで強豪選手を次々と撃破し、本学選手同士の対決となった決勝では接戦を繰り広げた。同部からは寺澤佑珠妃選手（日文1）も出場した。3選手は他大学選手とのペアでダブルスにも出場し、庄司選手・日本体育大学選手ペアが3位となった。

9月21、22日には首都学生リーグ1部秋季戦に臨み、団体戦で男子は3季連続、女子は4季連続の優勝となった。ダブルス戦では男子で須田零生選手（法1）・黒須柁暉選手（神2）ペアが、女子で庄司選手・濱島選手ペアが優勝を果たし、開催された全4部門の優勝を本学が独占。関東リーグ戦に向け、チームに勢いをつけた。



ソフトテニス部提供

卓球部

男女秋季リーグ 2シーズン連続で準優勝

関東学生卓球秋季リーグが9月1日から3日に所沢市民体育館で開催され、男女とも2部リーグに所属する国学院大学卓球部は春リーグに続き準優勝を収めた。



ニッタクニュース提供

主力を任せた高澤昇平選手（中文2）

男女2部は6大学で構成され、各大学と最大7試合で対戦。先に4勝したチームが勝利を得る方式で行われた。同部男子は初戦で埼玉工業大学と対戦し4-2で勝利すると、第2戦は優勝候補の大正大学と対戦。一進一退の攻防を繰り広げたが2-4で敗れた。第3戦からは慶応義塾大学に4-0、東京経済大学と日本体育大学にそれぞれ4-1と勝利し、4勝1敗で2位となった。

同部女子は、第1戦の東京経済大学に4-0と圧勝。第2戦では男子と同じく優勝候補の大正大学との直接対決に臨み、最終の第7試合までもつれる接戦の末、3-4で惜しくも敗れた。その後は東京女子大学、順天堂大学、青山学院大学にそ

れぞれ4-0と勝利を収め、4勝1敗の2位で秋季リーグを終えた。

この結果から同部男女は10月8日、和光市総合体育館で開催された1部7位校との入替戦に臨み、男子は法政大学に2-4、女子は日本大学に1-4と敗れ、惜しくも1部昇格はならなかった。

8月2、3日にはリーグ戦に先立ち、10月に滋賀県で開催される全日本学生卓球選手権大会の関東地区予選が駒沢屋内球技場で開催された。同部は予選突破者と関東地区推薦選手を含め、シングルスで男子3選手、女子6選手、ダブルスで男子3ペア、女子3ペアが出場権を獲得し、10月20日から23日に全国大会に挑む。

K:DNA——創立140年目を迎えた国学院大学の「遺伝子」…個人・個性を尊重する校風 若いエネルギーが未来を変える

陸上競技部

出雲駅伝準優勝 学生三大駅伝初戦で好成績

学生三大駅伝初戦となる第34回出雲全日本大学選抜駅伝競走が10月10日、出雲大社正面鳥居前から出雲ドーム前を結ぶ全6区間45.1kmで開催された。全20大学が参加するなか、国学院大学陸上競技部は準優勝に輝いた。

1区を任されたのは大学駅伝デビュー戦となる青木瑠郁選手(健体1)。スタート後に中央大学が飛び出すと、青木選手はライバル校と2位集団を形成しレースを進める。残り1キロ手前から各大学が激しく競り合うなか、1位から26秒差の7位で中継所に飛び込んだ。2区の山本歩夢選手(健体2)は、区間新記録となる走りで行先する法政大学と関西学院大学を抜き去り5位に浮上し、3区の平林清澄選手(経営2)に同学年リレー。平林選手は、強い向かい風のなか、粘りの走りを見せ6位で襷を繋いだ。

後半戦に突入した4区では、主将の中西大翔選手(健体4)が圧巻の走りを見せた。中西選手は襷を受け取ると、前を行く創価大学、順天

堂大学を次々と捉え4位に浮上。その後も勢いは衰えず、4キロ過ぎには青山学院大学、中継所手前では中央大学も抜き去り2位にチームを押し上げた。区間記録でも2位を20秒近く引き離し、自身初となる大学駅伝での区間賞を獲得した。5区の藤本竜選手(法4)は中央大学と並走しながら、1位の駒沢大学を追走する。両校は中継所まで競り合いを繰り広げ、最後はわずかに先行されたものの、3位で6区の伊地知賢造選手(健体3)に繋いだ。

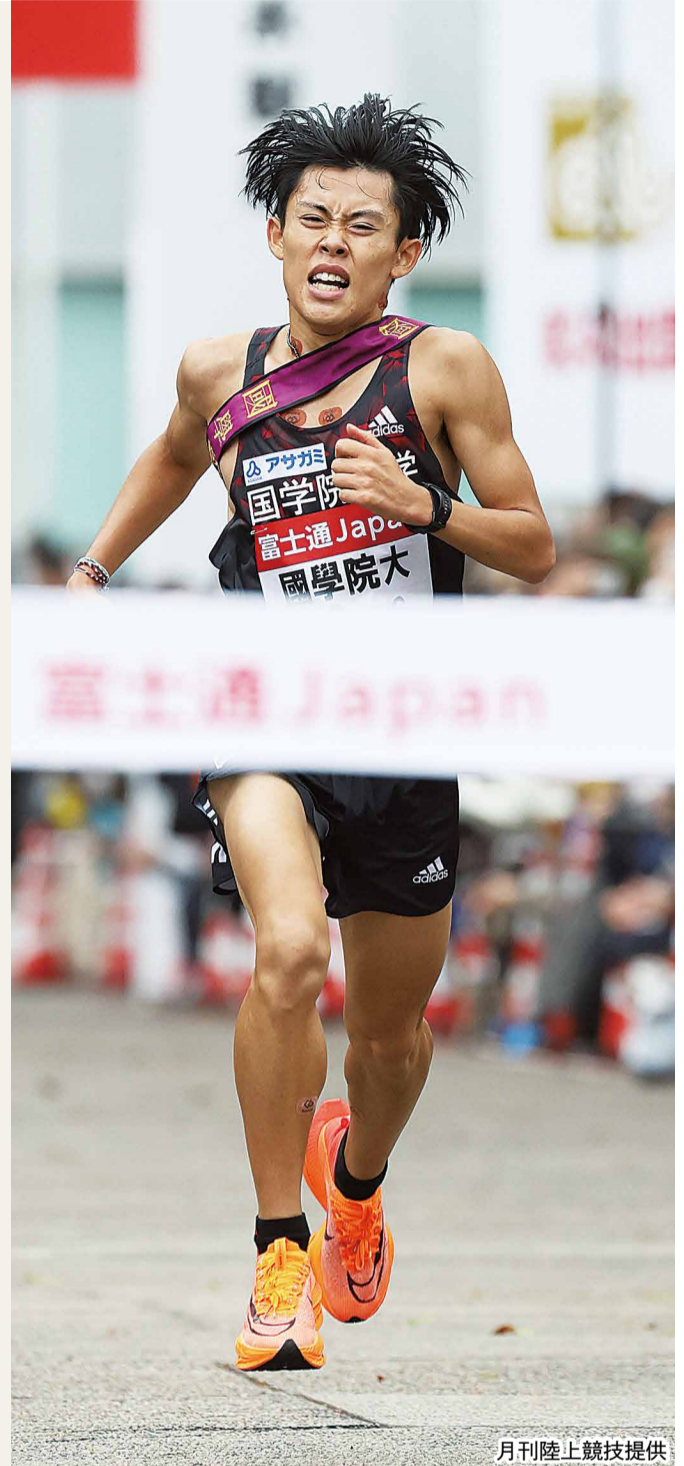
襷を受け取った伊地知選手はすぐさま中央大学に追いつくと、2キロ過ぎには引き離して単独2位に浮上する。伊地知選手はその後も区間賞を争うペースで走り続け、本学新記録となる2時間9分24秒の2位でゴール。同部は優勝した令和元年度の第31回に続く、チーム2番目となる成績を残した。

優勝は駒沢大学で2時間8分32秒の大会新記録。同部の今回の記録は歴代3位となる好タイムだった。

総合順位 (上位8校)

個人成績

順位	大学名	総合成績	区間	氏名	所属	タイム	区間順位	総合順位
1	駒沢大	2:08:32	1	青木 瑠郁	健体1	22分58秒	7位	7位
2	国学院大	2:09:24	2	山本 歩夢	健体2	15分46秒	6位 (区間新)	5位
3	中央大	2:09:48	3	平林 清澄	経営2	24分06秒	6位	6位
4	青山学院大	2:10:18	4	中西 大翔	健体4	17分50秒	1位 (区間賞)	2位
5	順天堂大	2:10:50	5	藤本 竜	法4	19分16秒	4位	3位
6	創価大	2:10:52	6	伊地知賢造	健体3	29分28秒	2位	2位
7	法政大	2:11:54						
8	東京国際大	2:11:59						



月刊陸上競技提供

2位でゴールに向かう伊地知選手

柔道部

全日本学生柔道体重別 後藤選手が日本一、押領司選手が準優勝

学生柔道の体重別個人日本一を争う男子第41回・女子第38回全日本学生柔道体重別選手権大会が10月1、2日に日本武道館で開催された。国学院大学柔道部からは、予選を突破した男子10選手が出場し、全国の舞台に挑んだ。

73kg級では、後藤颯太選手(健体1)が見事に優勝し、1年生ながら日本一に輝く活躍を見せた。後藤選手は、1回戦から順調に勝ち進むと、準決勝で平野龍也選手(明治大学)と対戦し、延長戦までもつれたが、横車で技有を奪い勝利した。決勝では、高橋慧選手(国士館大学)と対戦。本大会の東京都予選決勝で

も両者は対戦しており、全国の舞台での再戦となった。試合は、両者一歩も譲らぬ展開となると同スコアのまま延長戦に突入。最後は後藤選手が隅返を繰り出し、技有を奪い見事に激戦を制し、学生個人戦の頂点に立った。同部1年生の優勝は川上智弘コーチ(平成20年大会、81kg級)以来、14年ぶり。

90kg級では、押領司龍星選手(経営4)が準優勝の成績を収めた。前大会覇者の押領司選手は2回戦から登場すると、安定した試合運びでトーナメントを勝ち進んだ。準決勝で森健心選手(明治大学)に勝利を収め、決勝では中西一生選手

(国士館大学)と対戦。奇しくも昨年度の決勝と同じ組み合わせでのライバル対決に臨んだ。連覇を狙う押領司選手と雪辱を期す中西選手の試合は延長戦に突入し、試合時間が8分を超える競り合いが繰り広げられた。最後は技有を奪われ惜しくも敗れたが、押領司選手は全国の舞台で2年連続表彰台に上がる実力を発揮した。

同部からはほかにも60kg級の田中祥選手(経営3)、66kg級の藤岡歩武選手(健体2)、81kg級の岩下幹人選手(健体2)がそれぞれ5位となった。



押領司選手(左)と後藤選手(柔道部提供)